

様 式 8

河川基金助成事業

「藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業」 成 果 報 告 書

助成番号：2018-6112-012

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

実行委員長 坂 野 一 博

平成30年度

1. 事業概要

1-1 活動の目的

土岐川、庄内川、新川の河口にある藤前干潟は長年の市民活動によってゴミ埋め立てを免れ、平成14年11月に国設鳥獣保護区の指定とともにラムサール条約の登録地となった。日本有数の渡り鳥の飛来地である藤前干潟は、生命のつながりと私たちの暮らしのあり方を教えてくれる貴重な場所となった。しかし、当時の藤前干潟とその周辺の岸辺は、上流から運ばれたペットボトル、ビニール袋、発泡スチロールなどの石油原料の製品ゴミに覆われており、流域住民の良識が問われかねない状況にあった。

「ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」「子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」「流域全体のゴミや水のことを考えるネットワークを形成する」の三つを目的に2004年10月5日「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成した。

なお、第2回の取組以降、「伊勢湾ごみ流出防衛最前線」の活動と位置付け、より広い観点でのクリーンアップ活動をめざした。

1-2 実行委員会の構成

実行委員会には、「エコストック実行委員会」「土岐川・庄内川流域ネットワーク」「特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会」「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会」の土岐川・庄内川で活動する4市民団体が参加して、全流域の市民、行政、企業、学生等と協働して「流域一体」のクリーン大作戦実施をめざした。

2006年春に「モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会（通称：モリコロ会）」が、2010年春に「庄内川川ナビ歩こう会」が、2011年6月に「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が、2015年春に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会」（2016, 4, 1「土岐川・庄内川源流の森委員会」に改称）「名古屋市稲永スポーツセンター」「なごや舞祭衆」「(一社)ClearWaterProject」「萌木舎」「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、そして2016年4月に「名古屋野鳥観察館」が加わり、2017年3月には、「愛地クリーンプロジェクト」「中部大学上野研究室」が加わり、現在17団体が活動している。

1-3 実行委員会発足とこれまでの取り組み

2004.5～ 「土岐川・庄内川流域ネットワーク」が清掃活動を開始。現地調査活動含め計3回の清掃活動を実施。

2004.10.05 「エコストック実行委員会」「土岐川・庄内川流域ネットワーク」「特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会」「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会」の4市民団体が「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成。

2004.10.24 地域の3自治会（港西、稲永、野跡学区）および、国（国土交通省、環境省）・愛知県・名古屋市・名古屋港管理組合の行政、企業（建設業中心）との協働で第1回「藤前干潟クリーン大作戦」を240人の参加で実施。45Lゴミ袋で830袋収集。

2005.05.08 自治会（3→7学区）および、行政、企業（ペットボトル使用メーカーも参加）、学生との協働で第2回「春のクリーン大作戦」を430人の参加で実施。45Lゴミ袋で1,400袋収集。この取組以降「伊勢湾ごみ流出防衛最前線」の活動と位置付けた。

- 2005.11.13 自治会（7→8学区）および、行政、企業、学生との協働で、上流の土岐川流域からの100人を超える参加もあり 第3回「秋のクリーン大作戦」を612人の参加で実施。45Lゴミ袋で2,023袋収集。
- 2006.05.27,28 参加自治会も増え（8→9学区）、新たに「NPO法人モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会（略称：モリコロ会）」も実行委員に加わったが、「第4回'06春のクリーン大作戦」は雨天中止となった。
- 2006.11.05 春のうっぷんを晴らすかのようにゴミを拾い、628人が参加し「第5回'06秋のクリーン大作戦」を実施。45Lゴミ袋で1,784袋収集。モリゾー・キッコロが初参加。
- 2007.04.15 ゴミシンポジウムを稲永ビジターセンターで実施。
- 2007.05.19 「第6回'07春のクリーン大作戦」を実施。メイン会場を稲永として取り組み、748名が参加。45Lゴミ袋で1,314袋収集。
- 2007.11.10 第7回「'07秋のクリーン大作戦」を実施。614名が参加。45Lゴミ袋で1,284袋収集。
- 2008.05.17 第8回「'08春のクリーン大作戦」を実施。750名が参加。45Lゴミ袋で800袋収集。
- 2008.09.09 IUCNのカウントダウン2010キャンペーンに登録
- 2008.11.15 第9回「'08秋のクリーン大作戦」は、実施直前の雨により中止。
- 2009.05.23 第10回「'09春のクリーン大作戦」を実施。939名が参加45Lゴミ袋で1,018袋収集。この回から干潟観察会を開始する。
- 2009.10.31 第11回「'09秋のクリーン大作戦」を実施。10会場に初の千人越えとなる1,190名が参加。45Lゴミ袋1,791袋収集。この回から流域5地点の水質調査を開始。
- 2010.03.31 「庄内川歩こう会」が実行委員会に加入
- 2010.05.29 第12回「'10春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,632名が参加。45Lゴミ袋で1,800袋収集。ペットボトルごみを減らすためのアンケートを開始、以降3回連続して実施。
- 2010.10.23 第13回「'10秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,474名が参加。45Lゴミ袋で2,080袋収集。
- 2011.05.14 第14回「'11春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,483名が参加。45Lゴミ袋で1,879袋収集。
- 2011.06.03 「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が実行委員会に加入。
- 2011.11.12 第15回「'11秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,589名が参加。ゴミ袋45Lゴミ袋で2,293袋収集
- 2012.01.29 「第1回土岐川庄内川流域圏のゴミと水を考える集い」開催。31団体(25市民団体と6行政団体等) 60名が参加した。ごみを出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、三重県答志島の漂着ごみのクリーンアップ活動参加を決定。
- 2012, 03, 11 愛知、岐阜、三重の三県市民団体により、三重県答志島の漂着ゴミゼロをめざす、「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」結成に参加する。この後、活動の具体化に主体的に参画し活動に結集する。
- 2012, 05, 19 第16回「'12春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,821名が参加。45Lゴミ袋で2,034袋収集。過去最高の参加者を記録。ゴミも春としては過去最高を収集。
- 2012, 06, 09 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の下見清掃に愛知県

- の事務局として27団体54名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は300名。
- 2012, 09, 08 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県事務局として35団体115名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は500名。
- 2012, 10, 27 第17回「'12秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,876名が参加。45Lゴミ袋で1,802袋収集。過去最高の参加記録を更新。ゴミ収集数は過去5番目の数字。この回から中部大学ボランティアNPOセンターが活動に参加した。
- 2012, 11, 11 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に27名が参加し活動・交流した。
- 2013, 01, 26 第2回「土岐川庄内川流域圏のゴミと水を考える集い」開催。34団体(28市民団体と6行政団体等) 66名が参加した。2回にわたる三重県答志島の漂着ごみクリーンアップ活動を報告。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の56の行政機関に発送し広報への活用を要請した。
- 2013, 04, 28 庄内川河口部のヨシ原の土壌有機物量調査に中部大学上野研グループにより着手。以降、12月17日まで現地調査を重ね、14年1月のごみと水を考える集いで調査結果の報告を発表した。
- 2013, 05, 25 第18回「'13春のクリーン大作戦」を実施。12会場に1,704名が参加。45Lゴミ袋で1,249袋収集。参加者は前年の1,800台には届かなかったが、3番目の参加者。ゴミは、前年の2,000袋台から過去4番目に少ない収集となった。
- 2013, 06, 08 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三県持ち回りの流域エクスカージョン1回目の岐阜県郡上八幡市で開催した「長良川流域エクスカージョンin郡上八幡市」の森林整備と学習・交流会に、愛知県の事務局として25団体49名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は150名。
- 2013, 10, 13 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県事務局として33団体105名を取り纏めて参加。3県全体の参加者は300名。
- 2013, 11, 10 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に18名が参加し活動・交流した。
- 2013, 11, 16 第19回「'13秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,737名が参加。45Lゴミ袋で1,573袋収集。1,700名台・過去3番目の参加者。ゴミ収集数は秋の取組としてはここ5年間で最低の収集数。春・秋とも収集数が減少している。
- 2014, 01, 26 第3回「土岐川庄内川流域圏のごみと水を考える集い」開催。41団体(34市民団体と7行政団体等) 78名が参加した。ごみを出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の58の行政機関に発送した。
- 2014, 05~2015, 01迄 庄内川河口部のヨシ原の土壌有機物量調査等に中部大学上野研グループによる2年目の調査活動が行われ、その結果は、15年1月の第4回ごみと水を考える集いで基調報告として報告を発表した。
- 2014, 05, 17 10周年第20回記念「'14春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,755名が参加。45Lゴミ袋で1,523袋収集。参加者は前年の1,800台には届かなかったが、3番目の参加者となり20回の延べ参加者は2万人を超えた。
- 2014, 06, 15 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三県持ち回りの流域エクスカージョン2回目を愛知県田原市で開催した。「西の浜エクスカージョン」の事務局を担当し愛知県から200人3県で300人の参加者を得て清掃活動と勉強会を行った。この取組を

契機に三河・渥美地方の市民団体の活動参加が始まった。

- 2014, 10, 12 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県事務局として三河地方参加者を含め106名で参加。3県全体の参加者は302名。
- 2014, 11, 09 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に17名が参加し活動・交流した。
- 2014, 09, 25 第21回「'14秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,928名が参加。45Lゴミ袋で1,681袋収集。初めて1,900名台を超える参加者となった。ゴミ収集数は21回の通算で30,142袋となり3万袋を超えた。2010年～11年頃の1800～2000袋収集した頃から比べると、春・秋とも収集数が減少している。
- 2015, 01, 25 第4回「土岐川庄内川流域圏のごみと水を考える集い」開催。36団体(29市民団体と7行政団体等) 65名が参加した。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の62の行政機関に発送した。
- 2015, 03, 28 15年6月実施予定の22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会開催の流域エクスカッションが繰り上げて実施された。愛知県から65名、3県から250名が参加し、カエデ、サクラなどの広葉樹の植樹作業と交流会を行った。
- 2015, 04, 01 「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会」(2016, 4, 1「土岐川・庄内川源流の森委員会」に改称)「名古屋市稲永スポーツセンター」「なごや舞祭衆」「(一社)ClearWaterProject)」が、実行委員会に加入。構成団体12団体になる。
- 2015, 05～2016, 01迄 中部大学上野研究室グループによる3年目となる庄内川河口部のヨシ原調査活動が行われ、その結果は、16年1月の第5回ごみと水を考える集いで報告・発表した。
- 2015, 05, 16 第22回「'15春のクリーン大作戦」は、準備万端整っていたが未明からの雨により、7年ぶりの中止となった。
- 2015, 07, 08 「萌木舎」「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、実行委員会に加入。構成団体14団体になる。
- 2015, 10, 11 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県から66名が参加。3県全体の参加者は280名。
- 2015, 10, 24 第23回「'15秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に2,424名が参加。45Lゴミ袋で2,154袋収集。初めて2千名を超え、第1回の10倍の参加者となった。ゴミ収集数は21回の通算で32,296袋となった。ここ数年収集量に減少していたが、春の大作戦が雨中止になったこともあり、過去2番目の収集量となった。
- 2015, 11, 08 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心に19名が参加し活動・交流した。
- 2016, 01, 24 第5回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」(「土岐川・庄内川など藤前干潟形成流域のごみと水を考える集い」を改称)開催。35団体(26市民団体と9行政団体等) 70名が参加した。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の60の行政機関に発送した。
- 2016, 04, 01 「名古屋野鳥観察館」が、実行委員会に加入。構成団体15団体になる。
- 2016, 06～2017, 01迄 中部大学上野研究室グループによる4年目となる庄内川河口部のヨシ原調査活動が行われ、その結果は、17年1月の第6回ごみと水を考える集いで報告・

発表した。

- 2016, 05, 21 第24回「'16春のクリーン大作戦」は、10会場に1,778名が参加、45Lゴミ袋で1,761袋収集。24回の通算参加数は27,653名となりゴミ収集数は24回の通算で34,057袋となった。
- 2016, 06, 11 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会開催の流域エクスカージョンが岐阜県で「揖斐川エクスカージョン」で開催され、愛知県から58名、3県から150名が参加した。
- 2016, 10, 29 第25回「'16秋のクリーン大作戦」を実施。11会場に2,305名が参加。45Lゴミ袋で2,081袋収集。昨年秋に次いで2千名を超え、第1回の約10倍の参加者となり、春・秋2回の参加者合計は初めて4千人を超えた。ゴミ収集数は25回の通算で36,138袋となった。
- 2016, 10, 30 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に愛知県から62名が参加。3県全体の参加者は360名。
- 2016, 11, 13 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小学生を中心に25名が参加し活動・交流した。
- 2017, 01, 22 第6回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を開催。36団体(27市民団体と9行政団体等)81名が参加した。ごみを創り出さない社会をめざした7項目アピールを採択し、土岐川・庄内川流域の61の行政機関に発送した。
- 2017, 03, 09 「愛地クリーンプロジェクト」「中部大学上野研究室」が、実行委員会に加入。構成団体17団体になった。
- 2017, 04, 23 第8回新川クリーン大作戦に4名で参加し、クリーンアップ活動を通して活動を交流した。
- 2017, 05, 27 第26回「'17春のクリーン大作戦」を実施。11会場に1,724名が参加。45Lゴミ袋で1,480袋収集。26回までの延べ参加者は、31,639人、ゴミ収集数は26回の通算で37,618袋となり、延べ参加者が3万人を越えた。
- 2017, 06, 24 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の三県持ち回り流域エクスカージョンを愛知県が担当し「藤前干潟エクスカージョン」を開催した。愛知県から122人全体で178人が参加した。
- 2017, 10, 08 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の三重県答志島奈佐の浜の大清掃活動に知県事務局として57名で参加。3県全体の参加者は198人が参加した。
- 2017, 10, 21 第27回「'17秋のクリーン大作戦」の準備を整えていたが、台風21号による雨のためやむなく3年ぶり4回目の中止となった。雨企画として準備していた、中部大生24人を含むスタッフ36人が、庄内川最上流の三郷の川をきれいにする会の皆さん27人と「上下流交流会」を行った。
- 2017, 10, 28 えな環境フェアに藤前干潟のベンケイガニとともに、3名で参加し、藤前干潟の有用さと流域一体の
- 2017, 11, 11 土岐川・庄内川最上流域の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に港区内の小中学生を中心にしたイオンチアーズ茶屋等18名が参加し活動し、上下流交流会をした。
- 2018, 01, 21 第7回ごみと水を考える集いを開催。19市民団体、9行政機関、あわせて28団体63名が参加。流域一体となった「ごみの生まれない社会づくり」をめざす「あびーる」を採択。流域内60の行政機関・地方自治体に発送した。

- 2018, 05, 26 第28回「'18春の藤前干潟クリーン大作戦を実施。11会場に1,724名が参加。45Lゴミ袋で1,480袋収集。28回までの延べ参加者は33,300人、ゴミ収集数は39,322袋となった。
- 2018, 06, 09 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会吉崎海岸エクスカーションに愛知県から28人、三県全体で195人が参加した。
- 2018, 10, 14 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の答志島奈佐の浜の清掃活動に愛知県から44人、三県全体で200人参加した。
- 2018, 10, 27 第29回「'18秋のクリーン大作戦」は、1,211人が参加した。45Lゴミ袋で2,772袋収集。29回までの延べ参加者は34,451人、ゴミ収集数は41,919袋となった。
- 2018, 11, 10 土岐川・庄内川最上流の岐阜県恵那市三郷町で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に名古屋市港区内の小中学生を中心にしたイオンチアーズ茶屋のメンバー等19名で参加し活動・交流をした。
- 2018, 12, 15 台風21号24号で打ちあがったペットボトル等の漂着ごみ一掃のため、異例の秋2回目のクリーン大作戦を実施。110人が参加した。45Lゴミ袋459袋を収集（可燃ごみ；360袋、不燃ごみ：96袋、発火性ごみ3袋）。秋の取組（河川管理者の維持管理併せ）約20万本を収集した。
- 2019, 01, 26 第8回ごみと水を考える集いを開催。27市民団体、10行政機関、あわせて37団体92名が参加。流域一体となった「ごみの生まれない社会づくり」をめざす「あぴーる」を採択。流域内60の行政機関・地方自治体に発送した。

2. 活動内容

2-1 平成30年度の活動日時と場所

- (1) 第28回春の藤前干潟クリーン大作戦
日時：平成30年05月26日（土）
場所：藤前干潟（庄内川、新川、日光川下流域一帯）
- (2) 第29回秋の藤前干潟クリーン大作戦
日時：平成30年10月27日（土）
場所：藤前干潟（庄内川、新川、日光川下流域一帯）
- (3) 三郷のクリーン大作戦参加
日時：平成30年11月10日（日）
場所：岐阜県恵那市三郷町野井など
- (4) 第29回秋の藤前干潟クリーン大作戦パートⅡ
日時：平成30年12月15日（土）
場所：藤前干潟（新川左岸1.0km）
- (5) 第8回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」開催
日時：平成31年1月26日（土）
場所：名古屋市港区藤前1-742 藤前会館
- (6) 奈佐の浜プロジェクト委員会提起の活動に参加
 - ① 吉崎海岸エクスカーション
日時：平成30年06月09日（土）

場所：三重県四日市市楠町 吉崎海岸、楠交流会館

② 奈佐の浜大清掃活動

日時：平成30年10月14日（日）

場所：奈佐の浜大清掃は三重県鳥羽市答志島

2-2 活動実施に向けた事前の取組

- (1) 前年の秋の取組までに、実施当日に潮位が正午前後に干潮を迎えることを最優先にして「春の藤前干潟クリーン大作戦」と「秋の藤前干潟クリーン大作戦」の実施日を決定し、両取組日に焦点を合わせ、毎月1回の実行委員会を開催し具体化を図った。

適時に、協力団体への要請、広報チラシの発送、現地調査、参加者の安全確保のための草刈等会場設営、ごみ袋、軍手、熱中症対策用品等の安全実施のため消耗品等の確保等の事前準備を整え、本番当日を迎えた。

平成30年度は、9月に相次いで襲来した台風21号、24号による高潮で長年ヨシ原が確保していたペットボトルが大量に岸辺（高水敷）に打ち上がり、予定した区間のペットボトルを回収しきれなかった。河川管理者に報告・話し合い、打ち上がったペットボトルを放置すると次の大出水で伊勢湾に流出することになるとの認識で一致し、力合わせ「次期、19春の大作戦までに一掃する」こととし、当実行委員会は、15年目にして初めて秋2回目の19秋の藤前干潟クリーン大作戦パートⅡ【ペットボトル一掃大作戦】を12月15日（土）に開催した。河川管理者は、維持管理業務でペットボトルの回収を進めている。19春の藤前干潟クリーン大作戦は「ペットボトル一掃完結大作戦」として実施することを確認している。

11月10日の「三郷の川のクリーン大作戦」は、最上流で活動する「三郷の川をきれいにする会」と連絡・調整し参加を決定。藤前干潟クリーン大作戦参加者や藤前干潟近くのイオンチアーズの皆さんを中心に下流からの参加者を募った。

- (2) 第8回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を1月26日に土岐川・庄内川森の健康診断実行委員会と四日市ウミガメ保存会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の、5者連名による「呼びかけ文」等を伊勢三河湾流域圏で活動する市民団体等に発送し参加者を募った。
- (3) 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「吉崎海岸エクスカージョン」「奈佐の浜海岸清掃活動」は、奈佐の浜プロジェクト委員会の役員会に参加し、企画・運営に参画した。当実行委員会は、両活動とも、愛知県と岐阜県東濃地域の事務局を担当し、活動参加募集チラシ等を加盟団体・協力団体に郵送、メール送信するなどして参加者を募った。

2-3 活動の内容

- (1) 参加人数と集約したゴミの量

第28回春の大作戦：10会場に1,661名参加、45Lゴミ袋1,704袋収集。

干潟観察会参加者82名 ヨシ植栽実験参加者23名

第29回秋の大作戦：10会場に1,221名参加、45Lゴミ袋2,772袋収集。

干潟観察会参加者130名 ヨシ植栽実験参加者29名

第29回秋の大作戦パートⅡ：1会場110名参加 45Lゴミ袋459袋収集。

三郷の川のクリーン大作戦：イオンチアーズの小学生を中心に19名が参加した。

第8回ごみと水を考える集い：37団体(27市民団体と10行政団体等) 92名

(2) 実施内容

- ① 5月26日に第28回18春の藤前干潟クリーン大作戦、10月27日に第29回18秋の藤前干潟クリーン大作戦と干潟観察会等関連した取組を滞りなく事故なく無事に実施した。
両取組とも、地元自治会の参加を得て、藤前干潟一帯の10会場（港区内庄内川・藤前干潟に隣接する自治会が参加）でクリーンアップ活動を実施した。メイン会場の中堤会場で、春は4地点・秋は5地点の流域内の水質調査を行い水環境改善への啓発を行った。また、港区は伊勢湾台風の被災地であることから、まとめの会で、あいち防災リーダー等による講演と炊き出し訓練を行い、防災を啓発した。
- ② また、春、秋ともにクリーンアップ活動後、希望者による「干潟観察会」とヨシ原復元めざした「ヨシ植栽実験」（春の取組）、「ヨシ植栽を見守る会」（秋の取組）を行い、干潟環境の大切さと保全を呼びかけた。
干潟観察会は、中部地方環境事務所稲永保護官事務所の職員の協力・指導で実施している。ヨシ原復元・ヨシ植栽実験等は、中部大学の上野准教授を中心にした上野研究室の協力・指導で実施した。
- ③ 12月15日、第29回秋の藤前干潟クリーン大作戦で予定した区間のペットボトルを回収しきれなかったため、新川左岸1.0kmで「ペットボトル一掃大作戦」を行った。当実行委員会ホームページや、中日新聞、朝日新聞、中京テレビの事前報道等により予想を大きく上回る110名が参加した。この日は約1時間半、ひたすら拾い11,880本(実行委員会試算)のペットボトルを伊勢湾に流出する前に回収した。
東京から参加したPETボトル協議会浅野事務局長が参加し、漂着した膨大なペットボトルの量にビックリしたコメントを披露した。また、秋のクリーン大作戦に参加できなかった長谷工コーポレーションは大阪本社や東京などからも参加してくれた。また、名古屋外語大学のオーストラリア、フランス、カナダからの留学生も参加し、その内容を英字新聞にして校内だけでなく母国に発信してくれた。
- ④ 11月10日の三郷の川のクリーン大作戦に19名が参加した。この取り組みは、19秋の大作戦に最上流の恵那市から参加してもらっていることへのお礼として毎年実施している。クリーンアップ活動後に、「野井川のガサガサ」「古民家」「ベルちゃん乗馬体験」等で上流域の生活と文化を勉強した。「おにぎり昼食会」で上下流交流を深めた。多治見市の土岐川観察館を訪れ、上流域の河川環境と生き物の生態等を生物に触れて体感・学習した。この取り組みは、上下流の相互交流として第3回以降、毎年秋に実施している。
- ⑤ 2019年1月26日、第8回「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い」を開催した。37団体(27市民団体と10行政団体等) 92名と過去最高の参加団体・参加者があった。
記念講演に四日市大学環境情報学部工学博士の千葉賢教授が「漂着ごみとマイクロプラスチック」と題して、9月の二つの台風による「高潮」により、庄内川、新川河岸に漂着した大量のペットボトルの販売年度をPETボトル協会の協力を得て調査した結果、20年以上前のペットボトルがあったと報告があった。一端漂着ごみになると何十年先にマイクロプラスチック危機が来ることを知った。また、今回の膨

大なペットボトル漂着実態を調査・分析した結果として、15年間の藤前干潟クリーン大作戦により50万本以上のペットボトルが回収されているとの報告があった。

特別報告の「藤前干潟のヨシ原調査の報告」では、ごみの漂着がヨシ生育の阻害になっていると報告があった。PETボトル協会・秋野専務理事、沖縄浦添市のうらそえ里浜ネットワーク実行委員会田邊副会長等3件の話題提供で、ペットボトルや清掃活動への認識を深めた。

全参加者による四つの交流会を行った。「ペットボトルを漂着ごみにしない為に何をするのか!」を話し合った。まとめの全体会で四人の座長から、マイボトルの携行、デポジットなど具体策等も含めて多様な意見があった等の具体的な提案があったとの報告がされた。

「第8回ごみと水を考える集いからのアピール」を採択した。土岐川・庄内川流域を始め、伊勢・三河湾流域圏の60の行政機関に郵送し広報等への活用を要請した。

- ⑥ 平成22年4月1日に結成した「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」に、当実行委員会は、愛知県会議で事務局を担当し、愛知県内・岐阜東濃地域からの参加者取りまとめ、事前準備、当日運営などで役割を果たした。6月9日の吉崎海岸エクスカージョンには愛知から28名、三県全体195名、10月14日の秋の奈佐の浜海岸清掃活動には、愛知から44名、三県全体で200名が参加した。

3. 事業・活動の効果等

3-1 運動の広がり

第1回目の「藤前干潟クリーン大作戦」（平成16年10月24日開催）は、地元3自治会と企業、行政との協働により240人の参加だったが、13年目を迎えた第25回16秋の大作戦には2,305名が参加し、第1回から約10倍化し、前年秋の2,424名について過去2番目の参加者となった。また、この年、春・秋の合計参加者は初めて4千人を超えた。

2018年度は、秋の取組参加者が、1,221人と最近になく少なかったが、前日から朝方まで雨が降り続いたため、主要なCSR参加企業が前日までに参加を見合わせる事態があったことが主な要因であった。

「ペットボトル一掃大作戦」として12月15日に取り組んだ秋の大作戦パートⅡは、「新聞読んで参加した」「ホームページを見てきた」等、当実行委員会が、膨大な漂着ごみの実態と本取組を、「伊勢湾をマイクロプラスチックの海」にしない取組であることを発信した結果であった。クリアアップ活動が、環境保護活動であることを明らかにし、参加者層を拡大することに繋がった。

地元9自治会の皆さんは自主的に活動に参加してくれている。毎回、上流の土岐川流域（多治見市、恵那市）からの市民団体、中学生の参加者があるなど、流域各地で活動する市民団体、流域住民、企業、学生、地元自治会、行政などによる「流域一体」の活動としてしっかり定着した。

中部大学生は、2012年秋の大作戦に初参加以来、実行委員会の一員として、毎回、積極的にリーダー等の役割を担って運営に関わっている。多治見市の二つの中学校から毎回参加することも含め、若い世代の参加と活躍が増え、情報発信の場となっており、運動は次世代の

育成の場としても着実に広がっている。

22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会が7年目の活動となり、吉崎海岸エクスカージョンは6回目、秋の奈佐の浜海岸清掃活動は8回目の活動として、愛知県から多くが参加し伊勢湾を軸にした運動は着実に広がっている。

3-2 目標に対する到達状況

その1. 「ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」との目標は、15年前の活動開始前のような、オートバイや自転車、家電ゴミが散在するような状態はなくなった。また、来訪者が目視できる範囲での干潟や河口の岸辺に漂着した化石燃料由来のペットボトルやビニール製品などの土に還らない生活ゴミは、毎年2回のクリーン大作戦で回収してきた。

しかし、土岐川・庄内川、新川河口3.4kmに広がる約62.86ha(内6.13haは裸地)(2018,11末現在、四日市大学千葉賢教授測量結果)のヨシ原がキャッチしているペットボトル等の回収には手がつけられない状態だった。ところが、昨年9月に相次いで襲来した台風21号、24号による高潮により、ヨシ原がキャッチし伊勢湾への流出を阻止していたペットボトル等の化石燃料由来の膨大な生活ごみが浮き上がり土岐川・庄内川、新川の高水敷に押し寄せた。皮肉にも二つの台風が、ヨシ原内の埋蔵漂着ごみ一掃するチャンスを与えてくれた。

この事態を河川管理者と相談・協議し、当実行委員会委員会は10月26日の秋のクリーン大作戦に加えて、12月15日の秋の大作戦パートⅡ(ペットボトル一掃大作戦)を実施する。河川管理者は維持管理業務で回収作業をする。19春の藤前干潟クリーン大作戦で完了する。こととして、予定通り活動・作業を展開した。まさに官民協働の力で2018年度秋以降20万本近いペットボトルを回収して、19春の大作戦時に完了できる局面を迎えている。

「二つの台風」という天祐を得たとはいえ、藤前干潟から河口3.4kmまでの57haのヨシ原密集地内の漂着ごみを「一掃」できることは、15年間の当実行委員会の輝かしい到達点と言える。

その2. 「子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」目標は、上記の漂着ごみの清掃活動の到達点と合わせて、クリーン大作戦後の「干潟観察会」に延べ17回1,359人が無事故で参加し、笑顔と歓声を上げてこれを楽しんだという実績が、この目標を藤前干潟周辺においては達成しつつあることを証明している。加えて、参加した子供から大学生などの若い世代の反応と参加者の増加傾向から、「川岸、干潟で遊ぶ楽しさ」等が、若い世代の中に着実に拡大している。2018年春の干潟観察会には82名、秋は130名合わせて212名参加はこのことを確信できる。

その3. 「流域全体のゴミや水のことを考えるネットワークを形成する」目標は、第1回「ゴミと水を考える集い」から回を重ね8回目を過去最高の参加団体・参加者数で開催し、「マイクロプラスチック問題」等、踏み込んだ内容を学習し、参加者全員でゴミの生まれない社会実現目指したワークショップを毎回行い参加者の認識を高めている。ゴミの生まれない社会実現めざす7項目アピール等への賛同団体は63団体へと前進した。

また、第1回の「ゴミと水を考える集い」の開催を契機に、発足した愛知・岐阜・三重三県の市民団体が結集する「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」は7年目の活動となり、当実行委員会は主体的に参画し、三河地方も含めたネットワークづくりは着実に前進した。

この二つの枠組みにより「ネットワーク形成」は、活動の充実・前進をめざす域にまで到達した。

3-3 クリーン大作戦と環境改善

私たちのクリーンアップ活動開始直後に、ゴミに覆われていた岸辺（庄内川左岸-0.6kmなど）にはヨシが再生した。因果関係は明らかになっていないが、クリーン大作戦開始以前は確認されていなかった、貴重種のヘナタリの増殖が干潟各地で確認されている。

この一方、庄内川河口部のヨシ原が衰弱・枯渇する状況が広がっており、ヨシの枯れ茎が伊勢湾に流出し、各地の海浜環境とノリ養殖など業行に多大な悪影響を与えていることが判明した。藤前干潟のヨシ原の裸地は6,13ha（2018,11末現在、四日市大学千葉賢教授測量結果）と全ヨシ原の約1割となっている。

このため、平成25年度からヨシ原衰退の調査活動を開始した。平成26年度～30年度は「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進活動」の助成をえて、中部大学上野研究室の全面的な協力のもと土壌、水環境等の専門的な観点を含め総合的な調査・分析を行った。その結果、平成30年度にヨシ枯れの主要原因は、大出水イベントとごみ堆積によるストレスにあるとの結論を得て「第8回ごみと水を考える集い」で報告した。平成30年度は、「ヨシ原復元・ヨシ植栽実験」を行い、平成31年度以降の「ヨシ原復元・ヨシ植栽」に備えた。

こうした活動は、漂着ごみを伊勢湾に流出させない環境づくりを促進し、1級河川全国ワースト6位の庄内川の水質改善に繋がる。合わせて、ヨシ原を住处にするオオヨシキリ等の鳥類、ベンケイガニ等の多くのカニ類などの環境保全に寄与している。引き続き生物多様性の維持につながる活動をめざす。

3-4 河川管理者との連携状況

河川管理者（庄内川河川事務所）は、本実行委員会発足時から会議、打合せ、大作戦実行日に出席していただき適切なアドバイスを受けている。また、活動上必要な、河川管理に関わる各種便宜を図っていただいている。

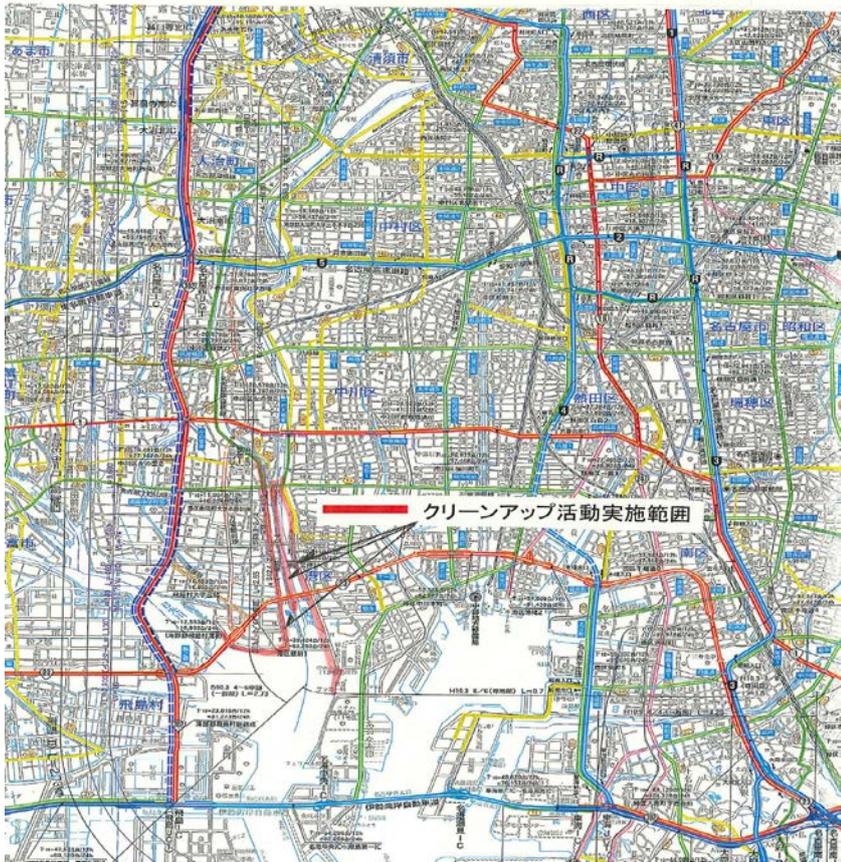
また、環境省中部地方環境事務所や、新川・日光川の河川管理者の愛知県、地元自治体である名古屋市をはじめ関係行政機関に働きかけ、市民団体、地元住民との協働の取組をより円滑にできるよう腐心しいていただいている。当日も含め準備段階から現地に出向き指導・協力を得ている。

なお、平成23年に庄内川河川事務所長表彰、平成24年に環境省中部地方環境事務所長、平成25年に国交省中部地方整備局長から表彰された。また、平成26年3月14日付けで河川協力団体に認定された。今後、河川環境改善・河川美化愛護の推進に向けて、河川管理者をはじめ関係行政との連携の強化に一層努力する。

様式11

3. 川づくり部門

[実施箇所位置図]

<p>助成番号 2018-6112-012</p>	<p>助成事業名 藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業</p>		<p>所属・助成事業者氏名 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野一博</p>	
<p>助成事業の主な実施箇所</p>	<p>主な実施箇所 藤前干潟クリーン大作戦実施会場 下記実施箇所 位置図 参照 第8回ごみと水を考える集い会場 藤前会館 名古屋市港藤前1-742 三郷の川のクリーン大作戦会場 岐阜県恵那市三郷町野井川 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会奈佐の浜海岸清掃活動 三重県鳥羽市答志島奈佐の浜</p>			
	<p style="text-align: center;">藤前干潟クリーン大作戦実施箇所 位置図</p>  <p style="text-align: center;">クリーンアップ活動実施範囲</p>			
<p>河川基金ロゴ</p>	<p>遠景</p>		<p>近景</p>	
	<p>告知チラシ、当日しおり、報告チラシ等参照。</p>			
<p>延べ参加人数</p>	<p>一般</p>	<p>3,331 名</p>	<p>スタッフ・事務局</p>	<p>150 名</p>
<p>マスコミの反響</p>	<p>18春の藤前干潟クリーン大作戦は、記者発表したが取材等はなかった。 18秋の藤前干潟クリーン大作戦は、中日新聞が一面で報道し、系列の東京新聞でも社会面で報道した。朝日新聞は社会面で報道した。名古屋テレビは昼と夕方の方の2回ニュース報道した。秋の第2弾の取組は、中京テレビがマイクロプラスチック問題と合わせて事前報道し、中日新聞と朝日新聞が事前報道した。当日の取組は、中日新聞と読売新聞が社会面で報道した。第8回ごみと水を考える集いは、中日新聞が県内版で報道した。18秋の当実行委員会の取り組み・関連記事は、ごみと水を考える集いも含め、6社で10日間に13の記事・ニュースが報道された。</p>			